

もりあげよう! 地域の行事

くも合戦



今年も、ひろしが楽しみにしている「くも合戦」の日が近づいてきました。ひろしが住む始良市加治木町では、毎年六月の第三日曜日「くも合戦」が行われます。約四百年も続いている伝とう行事です。

ひろしは、この大会に参加するために、友だちのゆうたといっしょにくもをつかまえに行き、毎日々くものえさをとって家で大切に育てていました。くも合戦が、一週間後にせまってきたある日、ひろしはゆうたを家によび、大会に出す大きくて強そうなくもを見せました。

「すごいだろう。今年は、ぜったいゆうしよするぞ。」

ひろしは、自信にみちた顔で言いました。ひろしは、ゆうたのおどろいた表じようを見てとてもうれしくなりました。ゆうたが、

「日曜日が楽しみだね。でも、ぼくのくもも負けないよ。」

と、ひろしのくもを手のひらにのせ、にこにこしながら言いました。

次の日、ひろしは、くもがいなくなっているのに気付きました。ひろしのくものことを知っているのはゆうただけです。ひろしはすぐゆうたのところへ向かいました。

「ゆうた、ぼくのくもにがしただろう。一番強いやつだったのに。」

ひろしは、おこった声でいきました。ゆうたは、

「ぼく、知らないよ。ぼくあの後・・・」

と、何かを話そうとしました。でも、ひろしは、ぷいっと向きを変え、ゆうたの話を聞かずに他の友だちの方へ行きました。そして、他の友だちにもそのことを話しました。友だちは、いっしょになって、ゆうたの話を聞きませんでした。それから一週間、ひろしは、ひとりぼっちですごしているゆうたを見ながら「ゆうたがあやまれればいいんだ。」という気持ちですごしました。

くも合戦当日になりました。ひろしは別のくもで出場し勝ち進んでいきました。しかし、試合の中で、がっかりしているゆうたのすがたを見かけました。ゆうたのくもは一回戦で負けてしまい、ひとりぼっちでかなしんでいたのです。そのすがたを見てると心がぎゅゅとしめつけられるようでした。

いよいよけっしょうせんです。ひろしはしんけんな顔でくもを見つけています。二ひきのくもは、ぼうの先でさかさまになっています。そのとき、すうっと糸をたれて、くもがぶらさがりました。ひろしの手にも力が入ります。そのとき、

「がんばれ! 負けるな!」

とゆうたの大きな声がひろしに聞こえてきました。その声に気付いたひろしは、はっとしました。

ひろしのくもは、いい戦いをくりひろげましたが、おしくも負けてしまいました。「勝負あり。」しんぱんの声が会場にひびきわたったその時です。ひろしは、ゆうたのところへかけよりました。

「ごめんね。」

と、ひろしは言いました。

「いいんだよ。くもがにげたのは、ぼくのせいかもしれないとあやまりたかったんだ。ごめんね。」

と、ゆうたが言いました。二人は、気まずい表じようをうかべながら、にっこりとうなずき合いました。

